

VII 常設委員会

1 教育予算委員会

1. 職務・役割

教育予算委員会の検討方針：「大学予算に関する検討会」及び「大学運営会議」からの要請を受け、教育予算申請書の内容を検討した。その際、教育の質の担保に留意しながら申請内容の妥当性を検討し、無駄を省き、今後の課題を明らかにして提言をまとめた。

2. 活動内容

1) 教育予算委員会開催

委員会の日程調整、予算申請方法・配布資料の確認、予算申請書の審査、修正予算の確認のため、計6回の委員会を開催した。

2) 予算申請に関する説明会の実施

2012年10月19日に予算関連の資料をイントラにアップし、2012年10月23日全教職員を対象に、「2013年度の教育予算の概算要求の方法について」「予算申請用紙」についての説明会を行った。また、11月20日のファカルティスタッフミーティングにて、2013年度教育予算総額は50,000千円以内を目標とすることを伝えた。

3) 予算調整過程

第一次予算申請総額は54,841千円（2012年度予算第1次申請額より16,510千円減）であり、4,841千円の削減が必要であった。委員会では、申請された教育予算について以下の5点を中心に確認・検討を行った。

- (1) 授業に関する科目予算および教務予算については、申請基準に照らし、①申請根拠、②優先度、③単位数および教育内容・方法の3点をもとに、教育予算として適切であるか否かを検討した。
- (2) 委員会活動予算については、委員会活動の内容と照合し適切であるか否かを検討した。
- (3) 全ての科目において申請予算の内容が教育予算として妥当かを書類、理由書、申請資料にて検討した。
- (4) 必要時予算担当者にヒアリングを行い、実質的に必要な予算のみを計上することを徹底した。
- (5) 2013年度実習費等（実習謝金、実習打合せ費用、

非常勤講師、特別講師、TA、臨時助教）に関する予算について、申請基準に照らし検討した。

3. 2013年度教育予算調整結果

- 1) 申請された教育予算に対し最大限の検討を行った結果、最終予算は48,644千円となり、目標の50,000千円を下回った。
- 2) 申請のあったDVDのうち、8件113千円分については今年度ビデオ予備費で購入することとした。
- 3) 外国からの客員教授人件費700千円、看護ネット維持費2,483千円は教育外予算とした。
- 4) 大学共通一視聴覚予算のうち、電子黒板はその必要性から2台追加（+360千円）し、3台購入することとした。
- 5) 大学運営会議の承認を得て、備品・消耗品の一部（2,265千円）については今年度中に購入することとした。

4. 課題

2013年度教育予算調整の過程において、今後の課題を次のようにまとめ提言とした。

1) 教育予算と教育外予算の分類について

実習室委員会の内容は直接教育に関するものであるため教育予算に含めた方が良い。

2) 特別講師について

学部・大学院共に原則として1単位につき1コマまでとし、それ以上の場合は理由書の添付を求めた。おおむね基準の範囲内で申請されていたが、基準を超えた場合に、書面のみで妥当性を判断することは困難であった。また、教育予算委員会に非常勤講師申請の可否を決定する権限は与えられていない。今後は、基準を超えるものについては、年度当初にカリキュラム運用委員会や研究科委員会にて検討し承認を得るなど、申請方法及びその可否について検討する必要がある。

3) 上級実践実習について

CNS コンサルテーション謝金として一律5万円支払うことができるが、科目により申請にばらつきがあるため、学内に周知する必要がある。

4) TA・臨時助教に対する謝金申請について

- ① 領域により申請時間および額の差が大きかった。
- ② 昨年度の実績と比べ、学生数や実習体制に大きな違いがないにもかかわらず倍近くの時間と額を申請している領域もあった為、次年度は実績額を勘案の上予算申請してもらう必要がある。
- ③ 演習・実習科目について、TA および臨時助教に対する謝金についてはこれまで別々の様式での申請を求めてきた為、人件費に係る全体像（総額）の把握が難しかった。次年度は同じ様式で申請出来るよう様式を変更する必要がある。
- ④ 今年度は、TA および臨時助教に対する謝金を申請する際に理由書の添付を求めた。TA と臨時助教の謝金申請には、様々な関連要因（科目担当教員と授業担当回数、大学から実習施設までの距離、実習指導に対する実習施設からの要望、科目担当教員の考える演習・実習内容・方法等）があると考えられるが、予算申請書だけではその詳細が把握できず妥当か否かの判断が困難であった。従って、TA と臨時助教の謝金申請に関する明確な基準を示すことは出来なかった。しかし、最低限の基準（例えば、講義や委員会出席のために学生指導ができないことから継続した教育の質を担保できない、あるいは学生および患者の安全が確保できない場合など）を決めて共有する必要がある。また、理由書の中には、科研等の研究調査および会議のためという申請理由もあり、研究活動のために TA・臨時助教に対する謝金申請を認めるか否か検討する必要がある。
- ⑤ 各領域がどのような申請をしているか公にすることによって、根拠に基づく慎重な申請が促進されると共に、全領域に共有される基準が形成されることが期待できる。今後は、申請内容をオープンにすることを検討する必要がある。
- ⑥ TA・臨時助教の確保が難しいという現状が判明した。その理由を明らかにし、関連部会でその原因を探る必要がある。

ットの作成等)を実施した。今年度新たに、中・高校生向け看護セミナー、Twitter および Facebook の開設等を広報室と協働してスタートさせた。また、聖路加国際病院との連携体制を構築し活動を拡大した。広報委員会の活動を効率よく遂行するために、昨年に引き続きチーム制にして各プロジェクトを展開したが、各プロジェクト活動が拡大したため、全メンバーが協力して行った。

- 1) オープンキャンパスの開催：(主メンバー) 角田、池口、大畑、三森
- 2) 大学ホームページ作成：福田、松崎、中村、榎田、進藤、高橋、片岡
- 3) 大学案内パンフレット作成：(主メンバー) 福田、その他の委員
- 4) 学生広報委員会との連携：高橋、池口、角田、三森、大畑、榎田、福田、松崎

2. 活動内容

プロジェクト毎に、年頭に目標と年間計画を立て、それぞれのチーム内で緻密に活動を展開した結果、昨年よりさらに発展がみられた。活動は、以下の通りである。

- 1) オープンキャンパス・看護セミナーの企画・運営
学生広報委員会との共同企画・運営による、オープンキャンパスを、6月下旬1回、7月下旬2回の計3回実施し、多くの来場者を得た(表1)。今年度は新たに、聖路加国際病院協力のもと、病院見学を企画した。6月は外来自由見学、7月は整理券を発行し、定時に病院スタッフがツアー形式で外来を中心に案内する企画であったが、就職先や実習先をイメージでき、病院と連携した教育環境を理解できると好評を得た。2階ラウンジには病院紹介コーナーを開設し、病院パンフレットを置き病院のVTRを映写し、また、副看護部長による病院紹介のプログラムをホールにて企画した。

例年実施の企画として、在校生による相談、実技体験、学生による学内ツアーは好評であり、大勢の参加があった。これらの企画は、学生と直接交流でき、本学の雰囲気を体感できると例年評価が高い。また、教員相談コーナーは進路や資格等についてのご家族からの相談が多く見られた。ホールでは、今年度より広報委員による大学案内オリエンテーションをおこなった。模擬授業は、今年度より実施回数を毎回1回とし、6月30日は成人看護学(急性期)、7月28日は地域看護学、7月29日は国際看護学の教

2 広報委員会

1. 役割・職務

大学および大学院の受験生獲得に向けて、大学広報戦略の検討、学外に向けた広報活動の企画・実施(オープンキャンパス、ホームページの更新、大学案内パンフレ

員がおこなった。また、今年度初めての企画として、3月に中・高校生向けの看護セミナーを実施した。

2) 病院との連携

今年度は初めての試みとして、夏休みに聖路加国際病院で一日看護体験をする高校生とボランティアに参加する高校生を対象に聖路加看護大学の紹介をした。病院の看護部の担当者やボランティアコーディネーターの方と打ち合わせを重ね、大学案内のパンフレットの配布と共にオープンキャンパス、白楊祭などのイベントの案内を通して広報活動を行った。オープンキャンパスのアンケートからは、この活動により本学を知り興味を持ったという回答があったことから、来年度も継続して同様の活動を展開していきたい。

3) 大学ホームページの更新

大学ホームページでは、2013年度の「新着情報」に88件の学内情報を掲載し、大学内の情報を学内外に発信した。学内情報入手から3日以内の掲載を目標に、広報委員長と広報室長への情報受け取り窓口を明確にし、メールによる情報を受付とした。受付後の流れも掲載内容の校正から掲載作業へとスムーズに依頼できるような役割とシステムを整えた。新着情報の掲載種類の枠組みは、「ニュース」「イベント」「学内情報」に加えて、掲載の多かった「入試」「受賞」の枠を増やし、情報を見やすく得られやすいよう工夫した。また、季節の変化や行事に伴い、トップページの写真を入れ替え、ホームページに関心を引くよう工夫を行った。また、トップページのバナーについても、再度見直しを行い、チームビルディングのバナー追加や、看護実践開発研究センターのバナーの移動など優先順位を確認し整えていった。学部や大学院等の願書受付期間や入試情報など、タイムリーな情報は、トップページの写真に付箋で情報を貼り付け目を引くように工夫も加えた。

今年度の新たな取り組みとしては、本学に関心を持ってくれる方々に幅広く情報を発信するために、聖路加看護大学のTwitterおよびFacebookの運用を2012年12月27日より始めた。Facebookでは、大学で開催するセミナー開催情報や、本学看護学部の卒業式や大学院の修了式の様子などを発信した。

4) 2013-2014大学案内パンフレットの作成

昨年度に引き続き、梁プランニング（3年契約2年目）とのパートナーシップを結び、作成を行った。

昨年度のものをベースに、今年度の新たな企画として著名な卒業生（石井苗子氏：女優・ヘルスケアカウンセラー・きぼうときずなプロジェクト実行委員会）へのインタビューページを設けた。著名な有名人を起用することにより、デジタルパンフレットを含めた露出の向上を狙った。

5) 学生広報委員会との連携

オープンキャンパスの開催にあたり、学生広報委員会と連携し、計画・運営を行った。白楊祭においては受験生相談コーナーを学生広報委員と連携して行った。さらに、夏休みの母校訪問を学生広報委員と進め、総人数35名（うち直接訪問29名）、大学よりパンフレット送付6件となった。

6) 学外における広報活動

今年度も新宿セミナー等の入試相談会に6回参加し、延67人の相談者が訪れ、個別の相談に応じた。

3. 課題

今年度は、新しい活動を展開させたが、受験生の増加という目標を達成することができなかった。以下に課題を明示し、今後の計画を挙げた。

1) オープンキャンパス等の内容検討と回数の増加

病院見学が好評であったため、病院と協力を密にし、説明スタッフと見学内容について検討し、より多くの人に実習環境を見ていただける環境を整えた。また、学生広報委員との連携も密にし、学生の一人一人が広報委員としての自覚を持って関わられる体制づくりが望まれる。大学院受験希望者対象のオープンキャンパスは、現在のところ学部と同時開催を予定している。次年度は、6、7月のオープンキャンパス以外の時期にも、本学の魅力を発信できる講演会やイベントを企画し実施する予定である。

大学案内パンフレットについては、大学のいろいろな情報を網羅する形で作成しているが、ステークホルダー及びニーズに合わせて、扱う情報の検討・精査および役割によって多様な広報誌等を作成することを今後検討していきたい。

2) ホームページ等の充実

これまで広報委員会で担っていた大学ホームページ作業は、次年度より広報室に委譲することになるため、広報室と広報委員会の役割を明確にしていく。

3) 大学広報活動のための連携体制の強化

学生広報委員会との連携については、各学生広報

委員の役割の整理、責任の明確化、指示系統の確立を目的に、全員に役割を付けて活動を行う予定であ

り、新たな協働体制の評価をしながら、改善すべきところは改善を行っていく必要がある。

4. 資料・データ

表1 2012年オープンキャンパス来場者数

(単位：人)

	開催日時	来場者数 (前年度数)	内 訳
1回目	6月30日(土) 13:00~16:30	362 (312)	学部志願者 215・大学院志願者 6・保護者 141 (前年度：学部志願者 183・大学院志願者 4・保護者 125)
2回目	7月28日(土) 13:00~16:30	530 (823)	学部志願者318・大学院志願者48・保護者200 (前年度：学部志願者486・大学院志願者58・保護者279)
3回目	7月29日(日) 13:00~16:30	855 (695)	学部志願者 517・大学院志願者 8・保護者 330 (前年度：学部志願者 413・大学院志願者 5・保護者 277)

3 学園ニュース委員会

2. 活動内容

学園ニュース No. 299 から No. 302 を4号編集・発行した。掲載記事概要は下記のとおり。

1. 役割

学園ニュースの編集、発行

No.	発行日 発行部数	巻頭記事/特集/その他	備考
299	2012年 4月26日	トップ「ようこそ聖路加看護大学へ」 学長 井部俊子	印刷紙はご家族、 役員等へ送付
	900部	特集 ご入学おめでとうございます 新入学生のひと言集 福井次矢新理事長就任ごあいさつ 新入教職員 自己紹介 また会う日を楽しみに 退職/休職教職員 Nurse を目指す学生たちへ応援メッセージ 表彰運営委員会より 受賞者のご紹介 2011年度 学部卒業生および大学院修了生の進路	
		INFORMATION 2012年度学事暦	
300	2012年 7月20日	Commemorative 300 th Issue トップ「学園ニュースの発刊と理事長退任まで」 名誉理事長 日野原重明	7月末のオープン キャンパス来訪 者にも配付する ため、印刷部数を 増加させた 12ページ構成
	1,400部	特集 学園ニュース祝 300号 昭和47年9月の第1号から300号に至る印象的な記事を再録した 体育デー 聖路加福島県災害支援プロジェクト1年間の活動総括	
		INFORMATION 2011年度決算報告	
301	2012年 12月7日	トップ「夫ヨセフの「正しさ」に抗って誕生する幼な子イエス」 キリスト教倫理担当 関 正勝	
	900部	特集 クリスマス 第36回 白楊祭「彩ー未来の色は自分色 (ワタシイロ)」 国際化推進委員会 Global Health Action	
		学術論文受賞 (亀井智子教授、新福洋子助教)、新人紹介	
302	2013年 3月5日	トップ「看護学を修め、社会に羽ばたく皆さまへ」 学部長・研究科長 菱沼典子	
	1,200部	特集 チーム・ビルディング育成プログラム 卒業・修了おめでとうございます (ひと言集) ホルツマー博士が叙勲 創立記念式典 (細谷亮太先生特別講演「いのちについて考えた こと〜小児科医としての40年」 2012年度学内表彰がありました。	
		INFORMATION 2013年度予算	

3. 課題

- 1) 菊田文夫委員長が上半期のサバティカルリーヴのため、記念号となった300号については萱間真美教授に代行した。
- 2) 300記念号は12ページ増大号とし、ホームページにも全ページを掲載した。紙面の web を通じた頒布の方法についてルール化したい。
- 3) 当委員会は活動を終了し、次号よりは広報室の事業として、広報部活動との連携を図りながら編集にあたることになる。

4 情報システム委員会

1. 役割・職務

- 1) コンピュータシステムに関する運用、管理上の諸問題の検討
 - ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク利用規程
 - ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク倫理規程
 - ・情報システム委員会規程
- 2) システムの運用の向上を図るための企画

2. 活動内容

- 1) 学生情報システム委員会について
学生委員は学部13名、大学院2名である。5月と7月の計2回、学生合同情報システム委員会を実施した。学生の意見として、学内 LAN や Wi-Fi の設置要望や、両面印刷ができるプリンタの設置要望が挙げられた。また、学生が Web 上で連絡事項などの情報確認ができる場や、学生が行なっている活動を情報発信できる場が求められた。資源削減と利便化の面から、講義レジュメの電子化についても提案があった。
- 2) 印刷枚数適正化への取り組み
昨年度に引き続き、各学年に年間印刷枚数の上限値を設定し、学修目的外使用（大量印刷物の放置行為等）の防止ならびに学修環境の向上に取り組んだ。印刷停止解除申請者19名のうち、実際に上限値を超えた者は15名（約3%）にとどまり、昨年実績の10%を大きく削減できた。次年度は新システム導入のため、今年度をもって印刷枚数制限は終了することとなった。

3) 無線 LAN サービスの利用拡大

昨年度、2号館の一部で大学院生を対象にインターネット無線接続サービス(Wi-Fi)の試験提供を実施した。実施に伴う運用上の問題はなく、学生情報システム委員会等を通してサービス拡大を希望する声があった。これを受けて、2012年11月1日より本館2階～4階にアクセスポイントを増設して試験提供を実施した。運用にあたり、利用上の手続きや免責事項、損害賠償について検討し、利用者へ周知した。サービス開始後、利用者を対象に任意のアンケートを実施し、31件の回答を得た。そのうち、一部 area で接続できないとの回答があったが、アクセスポイントの設置場所を変更したことで電波状況は改善された。学生の要望によりサービスを拡大したことで、学習・情報環境の向上につながっているものと考えられる。引き続き運用状況や利用者からの意見をもとに、今後のサービス提供を検討していく必要がある。

4) 両面印刷ユニットの設置

本館405号室及び2号館メディアルームにあるプリンタに両面印刷ユニットを3台設置した（2012年6月に405号室1台、2012年11月に405号室1台追加、メディアルームに1台設置）。設置後に印刷された全枚数のうち約10%が両面印刷によるものであった。引き続き利用状況をもとに、今後のサービス提供（設置台数など）を検討していく必要がある。

5) 新システムの検討について

昨年初めに Microsoft 社の WindowsXP(OS)が2014年4月8日でサポートを終了すると発表されたことにより基幹サーバを含む学内システムの見直しが必要となり委員会で検討を開始した。検討を始めるにあたり聖路加国際病院との将来的な連携も視野に入れるため双方の関係者を集めた意見交換会が3回行われた。8月以降1ヵ月半におよび情報システム委員長と情報システム室（11月設置）メンバーによるワーキンググループを立ち上げシステムの方向性について検討を行った。その結果、次年度システムはコスト削減と学生・教職員の ICT 活用における自由と自立を促すことを目的に、米国グーグル社が提供する GoogleApps（クラウドサービス）の導入が提案され10月の委員会で承認された。その後、チュータを含む情報システム室が中心となり技術的な問題点の洗い出しや導入スケジュールについての検討会が14回行われている。

3. 課題

1) 昨年度からの課題への取り組み

昨年度は大学院の共有スペースでのインターネット無線接続サービスの利用を開始したが、今年度は学生情報システム委員会で学部生からの利用拡大の要望があった。このため図書館、3階・4階教室にエリアを拡大した。学生からは概ね良好な反応が得られている。今後は使用状況および意見の集約を行い、サービス継続・拡大の検討を行う必要がある。

2) 今後の課題

来年度は、GoogleApps の導入によって、つぎのようなサービスが利用できるようになる。

- ・ gmail により、従来のメールアドレスの変更なしで場所を選ばずメールの送受信や検索
- ・ Google カレンダーによる学事歴や会議室予約等のスケジュールの共有
- ・ Google ドライブによるクラウド上でのファイルの共有や複数のパソコンとの同期
- ・ Google グループによるメーリングリスト作成
- ・ Google+による SNS と電子会議の活用やブログやサイトの簡便な作成など

これらと、Wi-Fi 環境の拡充により、どこでもパソコン、タブレット、スマートフォンなど端末を選ばずに活用できることで、いわゆるアクティブラーニングなどユビキタスな学習環境を整えることができる。これは、学生から提案のあった Web での情報確認、情報発信の場の提供、講義資料の電子化などを実現することにもなる。これらの移行プロセスでは、新しいサービスを現在のシステムと切れ目なくつなげ、学生や教職員が使いやすくニーズに合ったかたちで順次、紹介していく必要がある。

自由度が高いというシステムでは、そのぶん、ユーザーが自分の端末を自分で管理する必要があるため、基本的な情報リテラシーの獲得とその支援が不可欠である。定期的に講習を行ったり、わかりやすいマニュアルやガイド、FAQ などを作成する必要がある。この作業においては、専門家がただ一方的に作成しているのでは、学習効果も期待できず、ユーザーのニーズに合わせにくい。そのため、学生情報システム委員会を含めた学生有志や各部門の教職員と一緒に、それらの学習システムを作り上げていかななくてはならない。

5 国際化推進委員会

1. 役割・職務

国際化推進委員会規程に基づく

2. 活動内容

- 1) タイ・マヒドン大学ラマティボディ校交換研修参加者（4名、うち単位認定申請者2名）及び韓国・ヨンセイ大学交換研修プログラム参加者（単位認定申請者4名）に対する単位認定
- 2) ①マヒドン大学／ヨンセイ大学交換研修生（各4名）受け入れプログラムの実施
②マヒドン大学／ヨンセイ大学交換研修生（各4名）派遣学生の募集、選考の実施
- 3) 学生国際化推進委員会による交換研修生歓迎会、交流プログラムの企画及び実施
- 4) 聖路加看護大学 Global Health Seminar の実施
- 5) NCLEX-RN トライアル講座(全9回) の実施
- 6) 学術交流協定校との新規学生派遣・交換プログラム実施検討
- 7) 国際化推進に係る資金申請（グローバル人材育成推進事業、留学生交流支援制度）
- 8) 白楊祭参加：活動紹介展示・海外プログラム体験学生によるプレゼンテーション
- 9) SNS サービス（Facebook 及び Twitter）を活用した委員会情報発信

3. 課題

- 1) 2010年度で終了した米国・ヴィラノバ大学との交換留学プログラムに代わる新しいプログラムを引き続き検討し、次々年度を目標として具体化を目指す。
- 2) 本学学生のグローバル化を推進するため資金獲得の機会を伺うと同時に、本学教育予算内で取り組み可能なグローバル人材育成施策について検討を行い、実現を試みる。

4. 資料・データ

表1 2012年度交換研修プログラム等実績

国	派遣元/派遣先	滞在期間	参加者名
受 入	タイ マヒドン大学	2012年9月16日(日) ～9月29日(土)	Ms. Natacha Ownon (4年生), Ms. Nisara Tanphan (4年生), Ms. Wansiri Keawprasert (4年生), Ms. Sawita Charoenkla (4年生)
	韓国 ヨンセイ大学	2012年6月28日(木) ～7月11日(水)	Ms. Ye Rin Cha (3年生), Ms. Ha Rim Kim (3年生) Ms. Sung Hyo Lee (3年生), Ms. Sun Bok Park (3年生)
派 遣	タイ マヒドン大学 シリラート校	2012年8月8日(水) ～8月21日(火)	房野 紗矢子 (4年生)、手嶋 文香 (2年生) 藤井 真起 (学士16回生)、田所 裕佳 (学士16回生)
	韓国 ヨンセイ大学	2012年9月7日(金) ～9月20日(木)	明松 真喜 (学士14回生)、谷口 絵里奈 (学士14回生) 石渡 智恵美 (2年生)、堀田 真利子 (2年生)

表2 2012年度聖路加看護大学 Global Health Seminar 実績

日 時	講師/発表者名、内容		参加人数
2012年4月24日(火)	小山 幸子	第1部：看護師のキャリアとオーストラリア留学—私のライフプランニング 第2部：循環器看護の可能性—日豪の臨床経験から、その専門性と役割について	71名
2012年10月6日(土)	徳間 美紀	助産師として参加した NGO 国境なき医師団の海外派遣 (スーダン、シエラレオネ、エチオピア、パキスタン) での活動について	88名
2012年11月1日(木)	赤尾 和美	アンコール小児病院における HIV/訪問看護の専門家としての活動を中心として	98名

表3 NCLEX-RN トライアル講座(全9回)実績 (参加人数)

11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	1/10	1/17
66人	35人	16人	8人	8人	7人	7人	6人	5人

6 表彰運営委員会

1. 役割・職務

委員会は、本学の学生および教職員が互いの努力を称え、感謝の意を伝えあう機会を提供するため、以下に挙げる各賞等に関する事項の審議ならびに実務を行う。

- 1) 教員の教育活動・研究活動やその成果に関するもの
- 2) 学生の学習成果や活動内容に関するもの
- 3) 学内の職員の活動に関するもの
- 4) 学生の社会的活動に関するもの
- 5) キリスト教精神の学習や関連する活動に関するもの
- 6) その他表彰委員会で定めたもの

2. 活動内容

- 1) 表彰内容、対象者、方法の決定

教職員委員および学生委員との合同会議により本年度の表彰対象者と表彰名、対象選択方法、選択時期、授与の時期や場、表彰状や記念品の内容を決定した。今年度新たに「クラス表彰」を加えクリスマス会での表彰の機会を持った。「チャプレン賞」はチャプレンに依頼し、チャペルアワーの出席ポイントが多い学生と教員となった。「グッドディーチャー賞」は前期・後期を設け、「グッドプレゼンター賞」は総合看護・看護研究Ⅱの各発表会場で1名を選出し、表彰者は2階ラウンジに発表内容のポスター掲示をした。「SL スター」は表彰目的を明確にし、学生委員が選択した。「グッドボランティア」は学生委員の調査や大学院への呼びかけにより、過去に表彰されていない個人あるいはグループから委員会で選出した。

2) 広報

1年間の表彰内容とスケジュールのポスター等を

学内に掲示し周知を促した。また、学生委員による各クラス等への呼びかけにより、対象者の選択や投票を促した。その結果、グッドティーチャー賞は過去最高の122名が投票した。表彰結果は学園ニュースに掲載した。

3) 表彰式の運営

クリスマス会および創立記念行事での表彰式において、教職員委員および各学年の学生委員が式の運営を行った。

3. 課題

1) 投票や表彰者選出への関心、創立記念行事時に行

う表彰式の参加者の増加が課題である。広報および表彰時期についても検討したい。今回大学院の参加の機会が減少してしまった。大学院が参加できる企画をしていく必要がある。

2) 同様の方法を繰り返すと表彰者が固定化される企画も出てくる可能性がある。表彰企画の主旨からも、多くの人の活躍を知ってもらえる機会をつくる必要がある。

3) 教職員委員と学生委員とのスムーズな連携のために、学生が動きやすい時期や連絡方法を考慮しながら運営していく必要がある。

4. 資料・データ

表1 表彰名、表彰対象者、選出方法、表彰会場

表彰名	選出方法 / 受賞者 (敬称略)	表彰会場
チャブレン賞	【選出方法】チャペルアワーの参加ポイントが多かった学生および教員各1名 【受賞者】小島悠美(1年)・中村綾子(教員)	創立記念行事
グッドプレゼンター賞	【選出方法】総合看護・看護研究Ⅱの発表会会場で各1名を選出 【受賞者】磯田彩・山内麻衣・小林麻由子・石川智美・川島綾夏・栗飯原綾佳・駒田茉莉子・後藤千恵・矢澤寛子・鈴木帆奈・瀬尾沙織・向真理	創立記念行事
グッドティーチャー賞	【選出方法】優れた教授を行った教員を、学部生が前期・後期に投票。各1名を表彰した。 【受賞者】佐居由美(前期)・大久保暢子(後期)	創立記念行事
クラス表彰	【選出方法】クラスに貢献したクラスメートを各学年・学士で選出 【受賞者】ハロア潤子(学部1年)・今元春華・川上小百合(学部2年) 政木朋子(学士16)・三橋りさ(学部3年)・鶴見晋親(学士15) 山口保菜未(学部4年)・谷口絵里奈(学士14)	クリスマス会
S Lスター	【選出方法】学内の職員で心にとまる心地よい行動をしてくださった方。どこがキラッと光ったのかを学生委員が発掘して紹介。 【受賞者】「学生思いトップスター」：平塚岳人(学食シェフ)、 「優しさスター」：池之上久美子(清掃スタッフ)、 「食堂トップスター」：伊藤節子・小川美千代・山下郁代(学食スタッフ)、 「クリーントップスター」：嵯峨高子(朝の清掃スタッフ)	創立記念行事
グッドボランティア	【選出方法】過去に紹介されなかったボランティアを行っている個人あるいはグループを調査し、委員会で表彰対象者を選択 【受賞者】山田舞衣子(2年)(被災地仮設住宅サロン開催)、増田拓也(1年)(カンボジア教育支援活動)、小池依於奈(1年)(ネパール学校づくり)、福室自子(1年)(福島県健康相談・障害を持つ子どもとの交流など)、篠崎克子(博士3年)(聖路加産科クリニック玄関案内・ボランティア調整)	創立記念行事
学会等受賞者紹介	【紹介内容】優れた研究により学会等で表彰された教員・学生を表彰式の場で紹介(氏名と受賞理由・研究テーマ) 【紹介者】田代順子・新福洋子・松谷美和子・及川郁子(WHO Collaborating Centre グローバルネットワーク会議 第9回学術集会 Good Presentation Award)、新福洋子(日本私立系看護大学協会看護学研究奨励賞)、「明日の象徴」看看護・保健部門受賞)、亀井智子(日本私立看護系大学協会看護学研究奨励賞)、亀井智子、山本由子、梶井文子他(日本看護科学学会学術論文優秀賞)、亀井智子(「Marquis Who's Who in the World 2013」のヘルスケア分野)、浅井宏美(博士1年)(日本看護科学学会学術論文奨励賞)、堀成美(性の健康医学財団賞)、看護実践開発研究センター事業「乳がんサポートプログラム」(日本がん看護学会表彰)	創立記念行事

7 紀要委員会

1. 役割・職務

- 1) 聖路加看護大学紀要委員会規程を参照。

2. 活動内容

1) 紀要第39号の発行

- (1) 投稿募集を5月および7月のファカルティ・スタッフミーティングおよびメールで呼びかけた。
- (2) 当初予定していた期限(9月5日)までの投稿申込数が少なかつたため、期限を9月21日まで延長し、投稿申込を募った。
- (3) 申込みのあった査読あり原稿(原著、研究報告)について、査読者を決定し、査読を依頼した。
- (4) 投稿申込み数が確定した後に複数業者から見積もりを取り、印刷業者を正式に決定した。
- (5) 10月・11月に投稿原稿を受け取り、編集作業を進めた。短報のうち、研究報告調で記述されている原稿について、内容の修正を依頼した。
- (6) 投稿申込み時点での原稿数は16本(原著4、研究報告4、短報8)であった。その後、原稿の取り下げがあり、最終的には14本(原著2、研究報告4、短報8)となった。
- (7) 3月15日に650部を発行した。

3. 課題

- 1) 昨年度と同様の投稿申込期限の設定(9月)と投稿への呼びかけを行った結果、今年度の投稿希望のこの時点での取り下げは、1件にとどまった。このため、次年度以降もこの手順を進めていくと良いと判断した。ただ査読結果を見ての取り下げが1件あり、これをどう考えてゆくかが今後の課題となる。
- 2) 次年度は紀要40号の発行年度である。今年度はそのための予算計上をしたが、記念号を発行するかどうかも含めて、その企画は、来年度の課題である。
- 3) 現在、校正をお願いしている学外校正担当者への依頼を、来年度以降も依頼できるかどうか不明である。学外校正担当者の確定を、来年度早々に検討する必要がある。

8 オリエンテーション・セミナー委員会

1. 役割・職務

新入生オリエンテーション・セミナーの企画、実施

2. 活動内容

1) 新入生オリエンテーション・セミナーの開催

本学学部入学生を対象として、本学の理念およびカリキュラムへの理解、上級生や教職員との交流、さらに、新入生相互の交流などの促進を目的に、2012年度新入生オリエンテーション・セミナーを、財団法人キープ協会清泉寮において開催した。企画・実施に当たっては上級生のオリゼミ委員と共同で実施し、またセミナー当日は教職員の協力を得た。

日時：2012年4月6日(金)～7日(土) 1泊2日
場所：財団法人キープ協会清泉寮(山梨県北杜市高根町清里3545)

参加者：新入生95名、上級生22名、教員16名

プログラム：

4月6日(金)

9:00 大学出発(バスで清里まで移動)
昼食後

13:30-15:15 グループワーク「聖路加看護大学入学のきっかけ」

15:45-17:15 上級生企画・交流

17:15-17:45 タベの祈り(ケビン・シーバー司祭)

17:45-19:00 夕食(新館レストラン)

4月7日(土)

7:00 朝の森の散策・礼拝(ケビン・シーバー司祭)

7:30-9:00 朝食

9:00-11:00 グループワーク発表会

11:00-13:30 フィールドワーク/昼食

14:00 清泉寮 出発(バスで大学まで移動)

2) オリエンテーション・セミナーレポート

新入生オリエンテーション・セミナーに参加した新入生の感想を学内イントラネットで公開した。

3) アンケート結果

新入生アンケートでは、「このセミナーに参加して満足でしたか」の問いに、97%の新入生が「満足」と回答した。3%が「普通」と回答した。

3. 課題

本学の理念やカリキュラムの理解、新入生や教職員との交流のために新任教員の参加を求めたが、効果的・効率的な運用を考えるのであれば、領域を考慮しながら希望する教員の参加でよいのではないかと。来年度は、スケジュールがスムーズに遂行できるよう、食事形態だけでなく、具体的な動線を考えて清泉寮と十分な打ち合わせをする必要がある。また、当日は気温が零下で雪が降る天候であった。学生の服装等、想定できる注意点について徹底していく必要がある。オリゼミのレポートとした「感想文」をイントラネットとして公開したが、オリゼミ終了後も活用でき、思い出として残るような内容を検討し、冊子として配布していく方向で検討したい。

9 FDSO 委員会

1. 役割・職務

学部・大学院の教育・研究活動及び大学組織運営推進のために行う、Faculty Development (FD) および Staff Development (SD) に関する事項の審議ならびに実務を行う。

4. 資料・データ

表1 2012年度 FDSO 研修一覧

時期	テーマ (MAP 領域)	講師 (所属)	場所	参加人数
8月1日(水) 2012 FDSO-Week 第1回(学事)	キリスト教精神と本学のミッション (教職員向・レベルⅢⅠ)	ケビン・シーバー氏 聖路加礼拝堂司祭 聖路加看護大学教授	聖路加礼拝堂・ 同ロビー	教職員 68
8月2日(木) 2012 FDSO-Week 第2回	一人ひとりの広報戦略：小規模単科大学の挑戦 (主に職員向・レベルⅡ)	染谷忠彦氏 女子栄養大学常任理事	本館 403	職員 23 教員 16
8月3日(金) 2012 FDSO-Week 第3回	遠隔地での学習を可能にするウェブ基盤省察的学習支援プログラムの活用 (主に教員向・レベルⅡ)	田代順子氏 聖路加看護大学教授	2号館 メディアルーム	教員 15 職員 6
12月4日(火) 研究法シリーズ	Lesson learned and implications for conducting RCT (主に教員向レベルⅡ)	Dr. Alicia Matthews イリノイ大学准教授	本館 505/506	教員 30 院生 6
1月26日(木) 役立つツール道場 第1回(新規)	出張パワポ道場 (主に職員向・レベルⅡ)	小田 薫氏 聖路加国際病院経営企画室	本館 PC ルーム	職員 10 教員 1
3月14日(木) サイエンスカフェ 第1回(新規) ※延期 近日開催予定	臨地実習適正化のための看護系大学共用試験 CBT の実用化と教育カリキュラムへの導入 (教職員向・レベルⅠ)	柳井晴夫氏 聖路加看護大学教授	本館2階ラウンジ	

2. 活動内容

- 1) 教職員のニーズに基づき FDSO 研修を企画・実施・評価した(表1)。
- 2) FDSO-Week は小グループによる参加型により実施し、本学で取り組むべき課題への関心を高めた。成果は FS ミーティングにて共有した。
- 3) FDSO マップに基づき研修を位置づけた。また自己の能力開発・管理について FS ミーティングにて解説した。

3. 課題

- 1) 本学の経営および教育研究活動を推進する FDSO 研修を企画・実施・評価する。
- 2) 特色ある大学をめざし、教員力・職員力を高める研究交流の場をつくる。
- 3) PC ソフトや WEB ツールの活用など業務遂行に役立つ実用的な技術研修を継続する。
- 4) 教職員の FDSO の自己開発・管理および FDSO の全学的な共有化を推進する。
- 5) 新任教職員ガイダンスの内容について総務課と検討・改良する。